

平成 30 年度（2018 年度）事業計画書

（はじめに）

2018 年、公益財団法人鼓童文化財団は、設立 21 年目となり、これからの 20 年後を見据えた活動のスタートを切る年になる。その上で大事な点が、幅広い方々との協働であると考えている。

まず一つが、佐渡市との協働である。地域の文化振興をミッションに掲げる当財団にとって、その目的の達成を図る上で、行政と連携が不可欠である。

二つ目は、当財団が重点分野として取り組んでいる、エクサドンの普及・実証検証に欠かせない、研究者との協働である。

そして、何よりも鼓童の活動全般をご支持いただく、鼓童の会の会員の方々との協働である。

その協働作業を通して、平成 30 年度に以下の 3 事業の遂行に重点を置く。

■佐渡地域振興策との連携推進

佐渡は、過疎化・少子高齢化の大きな課題に直面しており、それに立ち向かう官民一体となった体制作りが急務になっている。そのような中、新たな組織の立ち上げ準備が進んでおり、当財団もその設立準備に関わっていく。

一つ目は、既存の観光推進団体（一般社団法人佐渡観光協会と一般社団法人佐渡地域観光交流ネットワーク）を統合した新法人の平成 30 年 4 月 1 日設立を目指すもので、観光庁が整備を進める、「DMO（Destination Management/Marketing Organization）」の候補法人になる団体で、その準備組織としての佐渡DMO推進協議会に監事（菅野敦司）・幹事（上之山博文）として参加。

二つ目は、佐渡の有形無形の文化財の保存活用を目的に、平成 30 年 7 月の設立を目指す、一般財団法人佐渡伝統文化振興財団（仮称）設立検討委員会（座長：高野宏一郎顧問）に、委員（松田祐樹理事・上之山博文）が参加。

三つ目は、佐渡市の委託事業で、地域で暮らす人々が中心となって生活機能を支える事業主体「RMO（地域運営組織）Region Management Organization」の設立に向けた中間支援。佐渡RMO連合協議会の立ち上げに向け、まず小木地区での推進に取り組む。本事業は、総務省RMO研究会委員の関原剛評議員をアドバイザーに迎えて実施する。

■エクサドンプログラムの開発普及

汐彩クリニック森本芳典氏と共同で取り組んで来た、介護予防・健康増進フィットネスプログラム「エクサドン」を本格始動させるため、エクサドンを地域社会に普及していく担い手の育成制度と会員制度の確立を行う。また、平成 29 年度に試行した、佐渡での集中勉強会と島外での講座を全国展開する。また、エクサドンの効果を測定する実証検証を、医療関係者・研究者との協働で実施する。

■鼓童の会会員・支援者との交流の場づくり

鼓童文化財団の支援者であり、鼓童の公演活動の観客である会員・支援者に、当財団の活動に直接触れて頂く機会として、交流会の機会、佐渡旅行企画等の充実を図る。

(実施事業)

- ア. 人づくり
- イ. 地域おこし
- ウ. 芸術文化の振興
- エ. 国際交流
- オ. 広報・ファンドレイジング

ア. 人づくり

(研修および体験学習を通じた担い手の育成)

(1) 「太鼓芸能集団 鼓童メンバー養成」コース

柿野浦研修所(旧岩首中学校)を拠点に、舞台メンバーを養成する研修プログラムの更なる充実をはかるため、太鼓芸能集団 鼓童、株式会社北前船と共に、カリキュラムの深化に取り組むと同時に、運営面での連携を強化する。

- ・ 一年次 4月～1月 約10名
- ・ 二年次 2月～1月 約8名

(2) 「エクサドン」

これまで、佐渡市高齢福祉課の委託事業として進めてきたエクサドン事業であるが、高齢福祉課としては独自に太鼓教室の展開を図る方針となり、佐渡市との連携は企画課を窓口に進めることになる。一方、島外におけるニーズの高まりから、エクサドンを地域社会に普及する人材としてのファシリテーターの養成制度の確立を図り、11月に東日本と西日本で入門講座、9月に佐渡で集中講座を開催する。

(3) 深浦学舎

昨年、鼓童内外、島内外の有志が参加して、10月に開催した「日本海大学セッション」の議論を経て、様々な方々と学び、協働する「場」としての深浦学舎を起点とした活用と活動を進める。

イ. 地域おこし

(地域資源を利用した地域活性化)

(1) 佐渡太鼓体験交流館(たたこう館)の運営

佐渡市の指定管理としての運営は終了し、年明けから市による修繕工事を経て建物の譲渡を受け、4月より当財団の施設としての運営に移行する。この機会に、修学旅行生を中心とした太鼓体験に加えて、閑散期対策として冬の親子の日帰り企画と、深浦学舎での宿泊とセットにした体験プログラムの充実を図る。また、施設の立地・機能を活かした飲食の提供等、新たな収入を生むサービスの開拓に向け、イベント時等の臨時飲食店営業の試行に取り組む。また、閑散期に島外での出前ワークショップを開催すると共に、エクサドンのノウハウを活かしたヘルスツーリズムのプログラム開発を、一般社団法人佐渡地域観光交流ネットワーク(※平成30年度新法人化予定)と行う。

(2) 「鼓童 佐渡宿根木公演」を中心とした宿根木地区との連携

2018年も、恒例になった春のゴールデンウィークに宿根木公会堂を会場に開催する。

会場がある宿根木地区は、国指定の伝統的建造物群保存地区として観光客の人気スポットになっている。一方、少子高齢化の影響で、集落には空家が増加し、後継者不足が課題となっている。そのような中、宿根木では持続可能な集落経営を図るため、法人の設立を検討しており、当財団ではその支援と連携を深めていく。

また、宿根木公演の期間に合わせて、鼓童の会会員を対象とする深浦学舎での宿泊・交流企画を実施する。

(3) 佐渡の地域振興に資する各種団体の事務局運営や活動のサポートおよび中間支援

- ・ 深浦小学校校舎活用委員会

旧深浦小学校学区8集落の代表により構成され、閉校後の校舎の活用を推進する委員会。

- ・ 小木湊まちなみの輪

佐渡小木湊（小木港と共に発展した地域）の歴史を活かしたまちづくりを促進し、地域活性化に寄与することを目的に活動を行う市民団体。

- ・ 佐渡市創業支援ネットワーク

佐渡市総合政策課が事務局となり、佐渡連合商工会や県内銀行、新潟大学などが連携し産官学で佐渡での創業を支援するネットワーク。

- ・ 佐渡観光地域づくり推進協議会

佐渡版DMO（Destination Management/Marketing Organization）の創造を目指し、島内の一次産業、観光などの各団体から組織される協議会。佐渡市観光振興課が推進役。

- ・ トキめき佐渡・にいがた観光圏

佐渡市と新潟市が連携する観光連携事業。全国的な観光地域づくりプラットフォームづくりを目指し、観光庁が推進している。

- ・ 佐渡市キャリア教育ネットワークミーティング

「佐渡が好きで、社会人になって佐渡で活躍できる人材」を育てる場づくりに貢献するネットワーク。佐渡市教育委員会が主体となり、「佐渡のしゃべり場」「中高生プロジェクト」など実施。

- ・ 佐渡国しま海道

国交省「日本風景街道」事業の一環として、佐渡独特の風景、地域文化や歴史を再発見・再構築し、情報発信する佐渡の活動団体。「寄れっ茶屋」などの活動を実施。事務局は佐渡市建設課。

- ・ 佐渡RMO連合協議会（仮称）

佐渡市の委託事業で、「RMO（地域運営組織）-Region Management Organization-」（高齢化・人口減少が進む中、地域で暮らす人々が中心となって生活機能を支える事業主体）の設立に向けた中間支援を行う、佐渡RMO連合協議会の立ち上げに向け、まず小木地区での推進に取り組む。

- ・ 佐渡祭ワールドツアー（実行委員会化予定）

佐渡相田ライスファーム代表取締役相田忠明氏が発起人となり、2017年3月「佐渡祭inニューヨーク」をきっかけに始まった、鬼太鼓を中心とした佐渡の祭りを世界で体現しようという取組。2018年はヨーロッパ（ミュンヘン、ミラノ、パリ）開催を予定。

(4) 外国人誘客のための現地プロモーション業務

2017年、佐渡市が太鼓芸能集団 鼓童に対し「ビジット佐渡アンバサダー（ビジット佐渡観光大使）」を任命。2018年の鼓童ヨーロッパツアーにおいて、外国人誘客のための佐渡観光PRなどロビーにて展開予定。2月のミュンヘン公演においては、佐渡祭ワールドツアーとタイアップし、ロビー内にて鬼太鼓披露を予定。

(5) アースファニチャー事業

EC2002 でのフォーラム「佐渡の森は蘇るか？」をきっかけに始まった実践企画「アースファニチャー」。里山の再生と地域経済の活性化、児童・生徒への新たな環境教育への取り組み。

- ・ 「緑の少年団」によるベンチの製作

ウ. 芸術文化の振興

(伝統文化の調査研究を通じた芸術文化の振興)

(1) 佐渡の文化に関する調査研究及び資料収集

郷土芸能の調査研究と資料収集、鼓童の映像資料、寄贈図書、レコード・CDの整理から始まった本事業は、地域振興に向けた研究と実践への取組みに広がっており、深浦学舎に佐渡に関わる図書資料等の閲覧コーナーの設置を行う。

また、調査研究の過程で出会った団体や地域の課題に取り組む活動への参加を通じて、地域の文化活動と地域づくり団体への支援と連携を深めている。

(2) 伝統文化・文化活動への支援

- ・ 東日本大震災で被害を受けた岩手県大槌町のジャズ喫茶への支援の一環として、岩手県三陸町の旅館へ、LPレコード約1,500枚を寄贈（Heartbeat Project）
- ・ 一般社団法人佐渡伝統文化振興財団（仮称）の立ち上げ支援、事業連携
- ・ 佐渡の集落で継承されている芸能の支援
- ・ 鼓童メンバーに対する、芸能講座、現地訪問の支援

(3) アウトリーチ活動

鼓童が培って来たノウハウを体現する鼓童名誉団員の活動支援と、新たな創造や普及に繋がる実験的なパフォーマンスやワークショップを通じた活動を進める。また、外部団体、専門家との協働により、そのノウハウの応用、社会貢献に向けた研究活動を行う。

主なもの：

- ・ 鼓童塾
- ・ 「芸能の宝島佐渡」公演
- ・ 研修生と島内中学生の交流学校公演

(4) 太鼓と医療介護を融合させたメンタルヘルスプログラムの開発

認知症予防プログラム「エクサドン」を応用させ、社会的な課題になっているメンタルヘルスをサポートする、太鼓芸能を通じた理学療法、作業療法、言語療法、健康スポーツに融合させた研究と実践を、それぞれの分野の専門家と協働で行う。

エ. 国際交流

(国際的な文化交流の場づくりと実践)

(1) 国際芸術祭「アース・セレブレーション (EC)」の実施・運営

31回目の開催となる「EC2018」は、今年本格的に始動する「さどの島銀河芸術祭（開催期間：7月下旬～10月上旬）」も事業の一環としながら、佐渡の幅広い方々との協働を深めていく。また、越後妻有「大地の芸術祭」、新潟市「水と土の芸術祭」の両トリエンナーレと連携した発信を進める。

小木地区においては、昨年同様に小木みなと公園を会場に、1,200人規模のコンサートを実施するほか、地区の各種団体と協働で町中に賑わいを生み出す「小木扇の市」の充実を図り、クルーズ船の着岸港としてのニーズの高まる小木港周辺の魅力醸成と活性化に取り組む。同時に、世界遺産登録、国内候補選定を見据えて、相川地区での薪能や佐渡体験プログラムの充実を図る。

アクセス面では、小木半島循環バスの運行を計画し、港及びイベント会場間のライナーバスを充実させ、両津・相川・国仲地区でのイベント参加者、宿泊者のアクセス向上を図る。

東京オリンピック・パラリンピック、世界遺産登録による、インバウンド旅行者の増加を見据えて、英語メディアでの情報発信を拡充させるほか、外国人参加へのサービス向上のため、佐渡市地域限定特例通訳案内士、外国人留学生のイベントスタッフとしての関わりを促進する。

開催期間：2018年8月17日（金）～8月19日（日）

開催内容：コンサート、EC シアター、ワークショップ、レクチャー&デモンストレーション、佐渡体験プログラム、フリッジ、ハーバーマーケット ほか

(2) 太鼓合宿の受入

ニューヨークの非営利団体Student Diplomacy Corpsが実施する、太鼓をテーマとした高校生を対象とした国際交流プログラムを受入、新潟県立羽茂高等学校の生徒との交流事業を行う。また、深浦学舎で宿泊と鼓童の太鼓講習をセットとした受入の拡充を図る。

(3) 外国クルーズ船の受入

近年、佐渡では外国船籍のクルーズ船の寄港が増え、乗船客の多くが鼓童を目的に来島する欧米の観光客で占められている。この機会に、鼓童の活動を積極的に紹介すると共に、ファンドレイジングに繋げるべく、アメリカの非営利団体Kodo Arts Sphere America (KASA) との連携を進める。

2018年予定 Silver Discoverer, Japan by Sea, Nobel Caledonia, Wonders of Japan 等、7隻。

オ. 広報・ファンドレイジング

(広報活動・資金調達の強化)

(1) 機関誌の季刊化と内容の充実

昨年、月刊から季刊に移行した機関誌『鼓童』。鼓童のメンバー・舞台活動を身近に感じていただき、また当財団の公益活動を幅広く伝える読物として充実を図る。

また、海外への情報発信を進める上で、KASAの協力により英語翻訳版のネット発信を目指す。

(2) ウェブサイトの充実

鼓童文化財団のサイトの整理及び拡充を行い、当財団の活動の発信を強化する。特に、研修所の内容を魅力的かつ分かり易く伝え、応募者増につなげる。

(3) 企業との関係強化により法人寄付の強化

エクサドンプログラムの社員研修への応用、企業の社会的責任（CSR）活動の一部として地域への提供等、当財団が持つコンテンツを提供し、協働して社会貢献活動を行うことで相互の関係強化を図る。

(4) 寄付のオンライン決済システムの定着化

2014年に導入し現在利用中の、インターネットを利用した決済サービス「PayPal」（ペイパル）のほか、非営利団体向けの決済サービスに関する情報収集を行い、寄付金収入の増加に向けて、財団ホームページの寄付申込メニューの充実を図る。

(5) インターネット時代の資金調達手法の活用

- ・ クラウドファンディング（インターネットを通じた不特定多数からの資金調達）
- ・ 古本募金「きしゃぼん」（古本を換金して希望の活動団体に寄付）
- ・ セールスフォース（非営利団体向け顧客管理システム）の活用

(6) 鼓童の会（友の会、後援会、支援会、特別支援会、賛助会、永年賛助会）

- ・ 永年賛助会制度の継続的運用（2014年開始。2017年12月現在30名が賛助会より移行。）
- ・ 法人会員制度の整備